

全国高等医药院校试用教材

(供中医专业用)

医用日语阅读教材

3

白求恩医科大学 主编

人民卫生出版社



全国高等医药院校试用教材

(供中医专业用)

医用日语阅读教材

3

主编单位

白求恩医科大学

编写单位

辽宁中医学院

白求恩医科大学

河北新医大学

哈尔滨医科大学

人民卫生出版社

· 医用日语阅读教材

3

白求恩医科大学 主编

人民卫生出版社出版

(北京市崇文区天坛西里10号)

长春新华印刷厂印刷

新华书店北京发行所发行

787×1092毫米16开本 6 $\frac{1}{2}$ 印张 128千字

1980年7月第1版第1次印刷

1981年7月第1版第3次印刷

印数: 25,201—36,400

统一书号: 14048·3779 定价: 0.56 元

编写说明

本教材是根据卫生部 1977 年第 770 号文件《关于编写高等医药院校新教材的通知》提出的要求和同年 11 月在武汉召开的《全国高等医药院校教材主编单位座谈会》制订的五年制教学计划而编写的。全书共分八册（基础教材一册，供各专业通用，200 学时；阅读教材七册，分别供各不同专业选用，100 学时）：

医用日语基础教材（供医学、中医、儿科、口腔、卫生、中药、药学专业用）

医用日语阅读教材（供医学专业用）

医用日语阅读教材（供中医专业用）

医用日语阅读教材（供儿科专业用）

医用日语阅读教材（供口腔专业用）

医用日语阅读教材（供卫生专业用）

医用日语阅读教材（供中药专业用）

医用日语阅读教材（供药学专业用）

本册为医用日语阅读教材，供中医专业用 100 学时，共 50 课，每课 2 学时。

根据卫生部的上述《通知》，本教材编写组由白求恩医科大学（主编单位）、辽宁中医学院、河北新医大学、哈尔滨医科大学等四个单位组成。本教材系试用教材。本册由辽宁中医学院于清涛、张月英编写，白求恩医科大学吴宣刚校阅。由于我们水平不高，经验不足，时间仓促，教材中会有不少缺点和错误，请各院校在使用中不断总结经验，提出宝贵意见，以便进一步修订。

全国高等医药院校日语教材编写组

1979 年 4 月

目 录

第1課	漢方 かんぽう の診断 しんだん	(1)
第2課	陰陽虚実 いんようきょじつ と補瀉 ほしや	(5)
第3課	臟腑 ぞうふ	(9)
第4課	証 しやう	(11)
第5課	舌証 ぜつしやう	(14)
第6課	切診 せつしん	(16)
第7課	脈の種類性 みやく しゆるいせいじやう 状 じやう と臨床的意義 りんしやうてき いぎ	(18)
第8課	太陽病 たいやうびやう 、太陰病 たいいんびやう の意義 いぎ	(20)
第9課	氣滯証 きたいしやう	(21)
第10課	瘀血証 おけつしやう と痰飲証 たんいんしやう	(23)
第11課	漢方薬 かんぽうやく のかたち.....	(25)
第12課	薬物の配伍 やくぶつ はいご	(27)
第13課	薬物の性味 やくぶつ せいみ	(30)
第14課	桂枝湯 けいしとう	(32)
第15課	小青龙湯 しょうせいらいりやうとう	(34)
第16課	柴胡剂 さいこざい	(36)
第17課	補中益氣湯 ほちゆえききとう	(38)
第18課	当归芍薬散 とうきしやくやくさん	(39)
第19課	五淋散について.....	(41)
第20課	八味丸 はちみがん の覚え書 おぼえがき	(43)
第21課	診断は治療 しんだん ちりやう である.....	(45)
第22課	漢方は人体を有機的に取扱う かんぽう じんたい ゆうきてき とりあつかう	(47)
第23課	漢方独特の機能病 かんぽうどくとく きのうびやう 理学的な見方 りがくてき みかた	(48)
第24課	治療手段別の基礎医学 ちりやうしゆだんべつ き そ いがく	(50)
第25課	漢方は急性の病 かんぽう きやうせい びやう 気にも効く き	(51)
第26課	経絡 けいらく	(54)
第27課	「経穴 けいけつ 」とは何 なん であるか.....	(55)
第28課	ハリ.....	(57)
第29課	鍼灸作用 しんきやう さやう	(59)
第30課	合谷 ごうこく （虎口 ここう ）.....	(61)

第31課	ちゆうせい い けつごう 中 西 医 結 合	(63)
第32課	ちゆう い よう い けつごう せい か じ れい 中 医 と 洋 医 の 結 合 に よ る 成 果 の 事 例	(64)
第33課	ま す い せいとう ハ リ 麻 醉 の 成 功	(66)
第34課	し あつばつ し へんとうしやうしやく 指 圧 抜 歯 と 扁 桃 焼 灼	(68)
第35課	とう えき ち りやうたいけい 湯 液 の 治 療 体 系	(69)
第36課	がい かんびよう 外 感 病 に つ い て (一)	(71)
第37課	がい かんびよう 外 感 病 に つ い て (二)	(74)
第38課	かんぼう 感 冒	(76)
第39課	き かん し ぜんそく 気 管 支 喘 息	(78)
第40課	しんぶとう ねつ さが かんじや 真 武 湯 で 熱 の 下 っ た 患 者	(80)
第41課	ちよう よう こうねつ かんじや 腸 チ フ ス 様 の 高 熱 の つ づ く 患 者	(81)
第42課	げんしやう ちけん いちれい 險 症 治 験 の 一 例	(84)
第43課	とうにやうびよう 糖 尿 病	(86)
第44課	いた こ びよう き 痛 み と 凝 り の 病 気 (一)	(87)
第45課	いた こ びよう き 痛 み と 凝 り の 病 気 (二)	(89)
第46課	かた しょう 肩 こ り 症	(90)
第47課	ふくまくえん 腹 膜 炎	(92)
第48課	い かいよう こうけつあつ かつべい かんじや 胃 潰 瘍 に 高 血 圧 を 合 併 し た 患 者	(94)
第49課	た はつせい かんせつ 多 発 性 関 節 リ ウ マ チ	(95)
第50課	フルンカロジス	(97)

第 1 課

漢方の診断

西洋医学の診断の目的は、病気を発見するの①にある②が③、漢方医学では④証を把握して⑤薬方を決めるのがその目的である。

証を把握するには⑥、四診といって⑦、これには⑧望、聞、問、切がある。だからこの四診を審かにせねば⑨薬方を誤用することになる⑩ので⑪、治療にその累を及ぼすものである⑫から⑬これは誤診になる⑭。

望とは⑮、望見ということで⑯、視診と同様な意味であるが、望は「のぞむ」の意であるから、病人を少し離れたところから見ることで、視診とは単に見るの⑰意だから近くに⑱見ることである⑲。

聞とは問答によって⑳、患者の音声を聞いたり㉑、家族歴や遺伝関係、職業その他の愁訴を聞いたりする㉒ことである。

切とは、切触すなわち触診のことで、病人の身体に触れてよく診察することで、この中には脈診、腹診も含まれている㉓。

この四診によって、証というものを㉔を把握して薬方を決定するのがすなわち漢方の診断である。

脈を診るということは㉕、取りもなおさず㉖病症を見ることで、それによって㉗病気の軽重消長を知ることになる。しかして㉘脈の証には三十六類も㉙あるから、これら全部を知ることは不可能であるが、少なくとも㉚十四類㉛は熟知せねばならない㉜。脈の性状は、左右両側は異なるものであるから、必ず両側の脈を診る必要がある。㉝

陰証とは、消極的及び寒性の意にして㉞、病勢沈伏して発見し難く㉟、脈は沈遅、沈弱、沈細、沈微であって力なく㊱、悪寒厥冷等の症ある㊲ものゝいい㊳、陽即ち陽証とは、積極的及び熱性の義にして、病勢発揚して開顕されない㊴ものはなく、脈も亦之に準じて浮数、浮大、浮滑、洪大となり㊵、多くは発熱するをいう㊶。

虚証とは空虚の意で病毒未だ去らないうちに、精力既に虚乏するものであるか

ら、脈は細少、微弱となり、腹部も亦軟弱無力で恰も綿花を手で押すよう⑩で、弾力がなくなった④護謨球を撫でるようであるから、虚証には下剤を用いられない④し④③、又発汗するのも大いに慎まねばならない。之に反して④実証は、即ち充実の意味で、病毒が体内に充実しているが猶是れと対抗しつつある⑤ものであるから、一般には壮実しているように見える④。だから脈にも実、長、大、滑等の病状を呈し腹部は緊張して力があり、或は硬堅で抵抗が強いものがあるから汗、吐、下を行うものである。

注 释

①〔の〕 形式体言，在这里代替形式体言「こと」，“事情”、“的”的意思，可以省译，因为只起语法上的作用。

②〔にある〕 惯用型，由补格助词「に」和动词「ある」构成，在这里是“在于”的意思。

③〔が〕 接续助词，接在用言或一些助动词的终止形的后面，表示前后两项事物相反，“虽然……可是”、“然而”、“不过”的意思，但其语气很轻。

④〔では〕 是补格助词「で」和提示助词「は」的重迭。「は」只起提示作用，加强语气。在这里是“在”、“在……上”的意思。

⑤〔て〕 接续助词，接在用言或一些助动词的连用形后面，连接前后相关联的两项事物，“而”的意思。

⑥〔証を把握するには〕 「には」是补格助词「に」和提示助词「は」的重迭，它直接连接在短句「証を把握する」的后面，构成补语，“在……时候”、“在……上”、“为了”、“对于”的意思。实际上，在「証を把握する」和「には」之间，省略了形式体言「こと」，因而，动词「把握する」是连体形。

⑦〔といて〕 是惯用型「という」的中顿，由补格助词「と」和动词「いう」的连用形「い」后接接续助词「て」构成，“称为”、“叫做”的意思。

⑧〔には〕 是补格助词「に」和提示助词「は」的重迭。「は」只起提示作用，加强语气。在这里是“在”的意思。

⑨〔せねば〕 由动词「する」的未然形「せ」连接否定助动词「ぬ」的假定形「ね」，再接接续助词「ば」组成，等于「しなければ」，“如果不进行”、“若不进行”的意思。

⑩〔せとになる〕 惯用型，由形式体言「こと」后接补格助词「に」和动词「なる」构成，在这里是“就成为”、“就陷入”、“就会”的意思。

⑪〔ので〕 接续助词，接在用言或一些助动词的连体形的后面，表示前后两项事

物的因果关系，“由于……因而”、“因为……所以”的意思。

⑫〔ものである〕 惯用型，由形式体言「もの」和判断助动词「である」构成，“是……的”、“就是”、“就”的意思。「もの」是形式体言“者”、“物”、“的”的意思。

⑬〔から〕 接续助词，接在用言或一些助动词的终止形的后面，也表示前后两项事物的因果关系，“因为……所以”、“因此”的意思。

⑭〔になる〕 惯用型，由补格助词「に」和动词「なる」构成，变成“成为”的意思，在这里可译成“就”，也可省译。

⑮〔とは〕 是补格助词「と」和提示助词「は」的重迭，是惯用型「というのは」、「ということは」的简缩，“所谓”、“这种事”、“这个事”的意思。参看⑩。

⑯〔というこゝとで〕 是惯用型「といふこととだ」的中顿。「という」也是一个惯用型，由补格助词「と」和形式用言「いう」构成，“称为”、“叫做”、“这种同‘这个’”的意思。「こと」是形式体言，“事情”的意思，后接判断助动词「だ」的中顿「で」，也是一个惯用型，“就是”的意思。「という」和「こと」都可以省译，因为只起语法上的作用。「というこゝとで」本来是“是这个事”的意思，可以译成“就是……的”或“就是”。

⑰〔単に見るの〕 「の」是领格助词，它直接连接在短句「単に見る」的后面，构成定语，“的”的意思。实际上，在「単に見る」和「の」之间省略了形式体言「こと」，参看⑥。

⑱〔近くに〕 「近く」是形容词「近い」的连用形，在这里起名词作用，其后面连接补格助词「に」，构成补语，“在近处”、“在附近”的意思。

⑲〔ことである〕 惯用型，由形式体言「こと」和判断助动词「である」构成，“就是”的意思。

⑳〔によって〕 是惯用型「による」的中顿，由补格助词「に」和动词「よる」的连用形「よる」连接，接续助词「て」，构成在这里是“根据”、“依靠”、“以”、“凭”的意思。

㉑〔…たり、…たりする〕 「…たり」是并列助词，接在用言或一些助动词的连用形的后面，表示两种以上的动作交互或并存，“又……，又……”、“或是”、“或者”的意思。「する」是「たり」在语法上所要求的形式用言，没有具体意思，只作谓语。

㉒〔含まれている〕 是动词「含む」的被动态进行时，由「含む」的未然形「含ま」连接被动助动词「れる」的连用形「れ」，再接续助词「て」，和补助动词「いる」所构成的进行时「ている」组成，“被包括着”、“被包含着”的意思。「脈診、腹診が含まれている」是个被动句，可译成主动句，“还包括脉诊和腹诊”。

㉓〔というもの〕 「という」参看⑯，「もの」参看⑫，本来是“这个东西”的意思，可以省译。

㉔〔ということは〕 惯用型，由补格助词「と」和形式用言「いう」后接形式体

言「こと」,再接提示助词「は」构成,“所谓”、“这种事”、“这个事”的意思。

②⑤〔取りもおさず〕 副词,作状语,“就是”的意思。

②⑥〔これによつて〕 惯用型,「これ」是代词,其它参看②④。起接续词作用,“根据这个”、“以此”的意思。

②⑦〔しかして〕 文语接续词,“然后”、“于是”的意思。

②⑧〔も〕 提示助词,在数量词的后面,起夸张语气作用,“竟(有)……之(多)”的意思。

②⑨〔位(ぐらい・くらい)〕 副助词,在这里表示数量、程度的大约,“左右”、“大约”、“大致”、“差不多”的意思。

③①〔ねばならない〕 惯用型,由否定助动词「ぬ」的假定形「ね」连接接续助词「ば」和动词「なる」的否定「ならない」构成,等于「なければならない」,“若不……不行”、“必须……应该”的意思。连接在动词「する」的后面时,前者要接在未然形「せ」的后面,而后者要接在未然形「し」的后面。

③②〔必要がある〕 惯用型,由名词「必要」连接主格助词「が」和动词「ある」构成,“有必要”、“必须”、“需要”的意思。

③③〔にじて〕 是惯用型「にする」的中顿,由补格助词「に」和动词「する」的连用形「し」连接接续助词「て」构成,在这里是“作为”、“为”的意思。

③④〔難く〕 是形容词「難(かた)い」的连用形,接在动词连用形的后面,音便为「がたい」,构成复合词,“难以……”的意思。

③⑤〔力なく〕 在名词「力」和形容词「ない」的连用形「なく」之间,省略了主格助词「が」。这是文语形式,可看成一个词组,“没有力气”、“无力”的意思。

③⑥〔病ある〕 也是文语形式,“具有症状”的意思。参看②④。

③⑦〔をいう〕 是惯用型「をいう」的中顿,由宾格助词「を」和动词「いう」的连用形「いい」构成,“指……所说”、“指……而言”、“是指”的意思。

③⑧〔開頭されない〕 是动词「開頭する」的被动态「開頭される」的否定,“不被显露”的意思。

③⑨〔となり〕 是惯用型「となる」的中顿,由补格助词「と」和动词「なる」的连用形「なり」构成,在这里是“成为”、“变成”、“形成”的意思。

③⑩〔発熱するをいう〕 「を」是宾格助词,它直接连接在动词「発熱する」的后面,构成宾语。实际上,在「発熱する」和「を」之间,省略了形式体言「こと」,参看⑥。「をいう」参看③⑥。“指发热而言”、“是指发热”的意思。

④①〔よう〕 比喻助动词,有的称为形容动词(属系形式用言)。它要求定语来修饰它,因而必须接在用言或一些助动词的连体形、领格助词「の」或连体词的后面,“样”、“像……(那)样”、“象似”、“如同”的意思。并它和形容动词一样,以「だ」、「です」,

「である」作为它的变化部分。

④1〔なくなった〕 是惯用型「なくなる」的过去时，由形容词「ない」的连用形「なく」后接动词「なる」的连用形「なっ」，再接过去助动词「た」构成，在这里是“消失了的”、“没有”的意思。

④2〔用いられない〕 是动词「用いる」的可能态「用いられる」的否定，由「用い」的未然形「用い」连接可能助动词「られる」的未然形「られ」，再接否定助动词「ない」组成，“不能使用”、“不可以使用”的意思。

④3〔し〕 接续助词，接在用言或一些助动词的终止形的后面，表示前后两项事物的并列，“也”、“又”、“并”的意思。

④4〔に反して〕 惯用型，由补格助词「に」和动词「反する」的连用形「反し」连接接续助词「て」构成，“与……相反”的意思。「之に反して」起接续作用，“与此相反”的意思。

④5〔つつある〕 是文语进行时，等于口语进行时「ている」，接在动词或一些助动词的后面，表示动作正在进行，“正在……着”的意思。

④6〔ように見える〕 惯用型，由比况助动词「よう」及其变化部分「に」构成状语，修饰动词「見える」所构成，“好象似”、“似乎”的意思。

第 2 课

陰陽虚実と補瀉

虚は補し実^{じつ}は瀉^{しゃ}するというのが①治療の原則である。若し虚^{きょ}せる②を瀉^{しゃ}すると③、不足^{ふそく}せる②ものがますます不足^{ふそく}になり、実^{じつ}するものを補^ほすると過ぎたる④ものがますます過ぐる⑤ことになる。これを具体的に説明すれば⑥、

1. 肺病^{はいびょう}は陰虚^{いんきょ}たる⑦病である。したがって陰^{いん}の不足^{ふそく}なものを補充^{ほじゅう}し始めて病^{びょう}が治^{なほ}る。そうでない⑧と到底回復^{とうていかいふく}されない。陰^{いん}を補^ほするには、熟地黄^{じゅくじおう}、生地黄^{しょうじおう}、白芍薬^{はくしやくやく}、麦門冬^{ばくもんとう}、牛膝^{ごせつ}、山薬^{さんやく}、沙参^{しゃじん}等の甘涼純静^{かんりようじゆんせい}の剂^{ざい}を用いねばならぬ⑨故に六味地黄湯^{ろくみじおう}、左帰飲^{さけいん}、一陰煎^{いちいんせん}、四陰煎^{しいんせん}或は滋陰降下湯^{じいんかうかとう}が基本的処方^{きほんてきしよほう}となつて、それに加減^{かへん}して使う。若しこの陰虚症^{いんきょしやう}を感冒^{かんぼう}と誤認^{ごにん}して、治療^{ちりよう}するとなれば次のような無理^{むり}が生^{しやう}じるのであつて、初期肺病^{しよきはいびょう}を感冒^{かんぼう}の治療^{ちりよう}として、しやすい⑩二つの理由^{りゆう}があ

る。即ち1)、症状が悪寒発熱、咳嗽、咯痰、煩燥等の感冒と類似する点が多いこと。①②肺病という病名を恐れてそのような診断を受けきらいになって③患者自身が断え間なく④感冒だと固執したおかげ⑤ついに感冒の治療を受けることである⑥が、これは実に肺病を養う結果になって了う⑦のである⑧。感冒の治療には発汗解熱剤を使う。発汗剤として⑨多く用いる薬には麻黄、桂枝、細辛、附子、生薑、半夏、蒼朮、荆芥、防風、蘇葉等の辛温升散の剤がある。これ等の薬が何故肺病にはいけない⑩かと云うと⑪、即ち、1)辛温して升散するの薬は皆陽性薬であるが⑫故に上記の薬を使用したとする⑬場合、第一助熱するからいけない。熱の⑭多過ぎる病に熱を助けてやる⑮ということはその病の増悪を免かれないものではない⑯か⑰。2)陰虚な人は発汗を多くしてはならない⑱。体温が高く、水分の不足すると⑲人⑳汗を出すのはいけないのである。体内の水分は即ち陰であって、陰を消散してしまえばますます陰虚になって病が悪化する。3)以上のような理由で以って㉑肺病の熱を発汗解熱剤で解するといふことは誤りである。

2. 感冒は寒邪、即ち陰実証である。感冒の原因は寒閉腠理(寒は腠理を閉す)即ち急激なる㉒寒気の感觸により㉓全身の皮膚小孔が過度に緊閉されて、皮膚による㉔呼吸と発汗が全然不可能になる。それが原因となって代謝作用に変調がわこるのを除去せん㉕と努力するのが即ち傷寒発熱である。たとえ熱が発するといえども㉖、その原因が急に堅く閉じられた㉗氣孔を開け戻す力、即ち陽の不足であるから、辛温の陽性薬を使つて氣孔を開け効すことを助力させる㉘のである。

肺病を感冒だと誤認しやすいが㉙如く㉚、あべこべに感冒を肺病と誤認する場合がある㉛。その理由は第一、惡寒、發熱、咳嗽、咯痰、衄血、煩燥等の症が、肺病の症状と同様であるから、ややもすると㉜、ただの感冒すら㉝こんなわけ㉞がある筈㉟がないと早合点して、肺病薬の補陰壯水の剤を用いるとなると次のような結果になるのである。1)陽が不足して発汗されないものにして陰を助けるとなる㊱とますます発汗することが出来ない㊲。升散して、始めて氣孔が開かれるにもかかわらず㊳、激解させるを感冒になお深入りして、癒り難くなるのである。

注 釋

①「というものが」・慣用型、由补格助词「と」和形式用言「いう」后接形式体言「の」、再接主格助词「が」构成、「所谓」、「这个事」的意思，可以不译。

②「虚せる」[不足せる]「せる」是文语动词「す」的过去时「せり」的连体形，等于口语动词「する」的过去时连体形「した」，「虚せる」等于「虚した」，「不足せる」等于「不足した」，并在「虚せる」的后面省略了形式体言「もの」。

③〔と〕 接续助词，接在动词或一些助动词的终止形的后面，表示前提条件，“如果……就”、“一……就”的意思。

④〔過ぎたる〕 是动词「過ぎる」的存续时，等于「過ぎてある」。「て」和「あ」约音为「た」。表示过激状态正在持续，“正在过激”的意思。

⑤〔過ぎる〕 是文语动词「過ぐ」的连体形，等于口语动词「過ぎる」，“过激”、“过分”的意思。

⑥〔ば〕 接续助词，接在用言或一些助动词的假定形的后面，表示前提条件，“假如……就”、“若……就”的意思。

⑦〔陰虚たる〕 「たる」是文语助动词「たり」的连体形，等于口语判断助动词「だ」的连体形「な」，「陰虚たる」等于「陰虚な」，“阴虚的”的意思。

⑧〔そうでない〕 「そう」是付助，“那样”的意思，后接判断助动词「だ」，构成合谓语句。「でない」是「だ」的否定。“不是那样”、“不这样”的意思。

⑨〔ねばならぬ〕 惯用型，由否定助动词「ぬ」的假定形「ね」连接接续助词「ば」和动词「なる」的未然形「なら」连接否定助动词「ぬ」构成，等于「なければならない」，“如果不……不行”、“必须”、“应该”的意思。

⑩〔しやすい〕 是动词「する」的连用形「し」连接形容词「やすい」的复合词，“容易做”、“容易进行”的意思。

⑪〔…こと。…ことである〕 是两个形式体言「こと」的并列，在前一个「こと」的后面省略了一个判断助动词「である」。

⑫〔診断を受けきらいになって〕 「受けきらい」是动词「受ける」的「受け」连接动词「きらい」的连用形「きらい」的复合词。在短句「診断を受けきらい」的后面连接补格助词「に」，构成补语，“不愿意接受……诊断”、“厌恶接受……诊断”的意思。而「になって」是惯用型，由补格助词「に」和动词「なる」的连用形「なっ」连接接续助词「て」构成，在这里是“起来”的意思，但可以省译。

⑬〔断え間なく〕 惯用型，由名词「断え間」和形容词「ない」的连用形「なく」构成，作状语，“不断地”、“坚持”的意思。

⑭〔あげく〕 名词，“结果”、“最后”的意思。其后面省略了补格助词「に」。

⑮〔て了う〕 由接续助词「て」和补助动词「了う」组成，接在动词或一些助动词的连用形的后面，表示动作或状态的结局或完结。

⑯〔のである〕 惯用型，由形式体言「の」和判断助动词「である」构成，表示十分肯定的语气，“是……的”、“就是”，也可以省译。

⑰〔として〕 是惯用型「とする」的中顿，由补格助词「と」和动词「する」的连用形「し」连接接续助词「て」构成，在这里是“作为”的意思。

⑱〔いけない〕 惯用型，是动词「いける」的否定，“不可以”、“不行”的意思。

⑲〔かと云うと〕 惯用型，由付助词「か」重迭补格助词「と」和动词「云う」连接接续助词「と」构成，“若说……呢”的意思。

⑳〔が〕 文语领格助词，接在用言或一些助动词的终止形的后面，作定语。是其后面的文语「故」或「如く」要求的，但也可以省去不用。

㉑〔とす〕 惯用型，由补格助词「と」和动词「する」构成，在这里表示假定，“假使”、“若是”、“如果”的意思。

㉒〔の〕 主格助词，以主格助词「の」表示主语时，构成其谓语的用言一定是连体形、修饰其后面的体言。以主格助词「の」表示主语的句子是修饰句，有的称为“定语从句”。

㉓〔てやる〕 由接续助词「て」和补助动词「やる」组成，接在用言或一些助动词的连用形的后面，表示给以或加以某种动作或行为，去积极地进行。

㉔〔ではない〕 由判断助动词「だ」的连用形「で」连接提示助词「は」和否定助动词「ない」组成，较「でない」的语气为强，“并不是”、“不是”的意思。

㉕〔か〕 感叹助词，接在用言或一些助动词的终止形的后面，表示疑问或反问，“么”的意思。

㉖〔てはならない〕 惯用型，由接续助词「て」重迭提示助词「は」和动词「なる」的否定「ならない」构成，“不可”、“不准”的意思。

㉗〔ところへ〕 是形式体言「ところ」连接补格助词「へ」(读为「え」音)，“正当……时候”、“在……时候”的意思。

㉘〔以って〕 文语接续词，“所以”、“因此”、“因而”的意思。

㉙〔急激なる〕 「なる」是文语助动词「なり」的连体形，等于口语判断助动词「だ」的连体形「な」。「急激なる」等于「急激な」，“急激的”的意思。

㉚〔により〕 是惯用型「による」的中顿，由补格助词「に」和动词「よる」的连用形「より」构成，在这里是“由于”的意思。

㉛〔による〕 惯用型，由补格助词「に」和动词「よる」构成，“以”、“依靠”、“根据”的意思，在这里也可以省译。

㉜〔除去せん〕 「せ」是动词「する」的未然形，「ん」是文语推量助动词，等于口语推量助动词「よう」，表示意志。「せん」等于口语「しよう」，“想”、“要”的意思。「除去せん」等于「除去しよう」，“想要除去”的意思。

㉝〔といえども〕 「いえども」是接续助词，接在补格助词「と」的后面，“虽然”、“即使……也”的意思。

㉞〔閉じられた〕 是动词「閉じる」的被动态过去时，由「閉じる」的未然形「閉じ」连接被动助动词「られる」的连用形「られ」，再接过去助动词「た」组成，在这里作定语，“被关闭了的”、“被已关闭的”的意思。

③⑤〔助力させる〕 是动词「助力する」的使役态,“使……协助”、“有助于”的意思。

③⑥〔如く〕 是文语形容词「如し」的连用形,“像……那样”、“如同”的意思。它要求定语来修饰它,因此必须连接在用言或一些助动词的连体形或领格助词「の」的后面。

③⑦〔場合がある〕 惯用型,由名词「場合」连接主格助词「が」和动词「ある」构成,“有时”的意思。

③⑧〔ややもすると〕 付助,作状语,“很容易就”的意思。

③⑨〔すら〕 文语付助词,“连”、“尚且”的意思。

④①〔わけ〕 形式体言,“道理”、“理由”、“原因”、“意义”的意思。

④②〔はず〕 形式体言,“应该”、“理应”的意思。

④③〔となる〕 惯用型,由补格助词「と」和动词「なる」构成,“成为”的意思,在这里可以省译。

④④〔ことができない〕 是惯用型「ことができる」的否定,由形式体言「こと」连接主格助词「が」和动词「できる」的否定「できない」构成,“不能”、“不会”的意思。

④⑤〔にもかかわらず〕 惯用型,“尽管”、“虽然……但是”、“不论”的意思。

第 3 课

臓 腑

人間の内臓をその機能に依り臓と腑に分類するのであって、臓は生命のある限り①の間は②瞬時も③休息することなく④労作をし⑤、腑はその時々⑥の必要に応じて⑤労作するものである。

臓には心、肺、脾、肝、腎の五臓があり、腑には小腸、大腸、胃、膀胱、三焦の六腑がある。この臓腑を論ずる前に理解せねばならぬことは、東洋医学での⑥心とか⑦腎とか或は胆というのは⑧現代の生理或は解剖学上の心臓とか腎臓とか或は胆嚢⑨の⑩、その内容に於て⑪大きい差異があるものである。漢医学上の心は洋医学上の心臓よりは⑪その意味するところ⑫の範囲が最も広汎である。この

広汎なる範囲のものが場合に依っては⑬、学術的の批判上、漠然たるものと攻撃せられる⑭点はあるが、然しながら⑮生物体の複雑微妙な作用を理解するにはあまりにも⑯幼稚である現代科学から、このような批評を受ける点が、かえって東洋学問の長所であるかも知れない⑰ものである。

東洋医学の臟腑論は死体解剖に依る学問でなく、生体の生理現象と症状を基礎にした⑱学問である故に、往往臟器の解剖学的位置を無視し、顛倒されたかの⑲如くみえる⑳場合があるが、これは解剖学の知識がないというよりも、むしろ㉑現象を尊重したからである㉒。例えば、左側の半身不隨が神経中枢は右側に故障があるとしても㉓、吾等は現象を尊重して病が左側にあるというのと同様である。それと同じく㉔、胃が上にあり腸は下にあるとしても、その反応に依り胃は足陽明と云って下部に位し大腸は手陽明として上部に位したのである。

注 釋

- ①〔限り〕 形式体言，表示限度、条件，“在……范围内”、“只要”的意思。
- ②〔は〕 提示助词，在这里顶替补格助词「に」，起提示作用，加重语气。
- ③〔も…ことなく〕 惯用型，「も」是提示助词，「ことなく」是形式体言「こと」和形容词「ない」的连用形「なく」，起状语作用，“即使……也不”、“连……都不”的意思。
- ④〔し〕 是动词「する」的连用形，表示中顿。
- ⑤〔に应じて〕 惯用型，由补格助词「に」和动词「应じる」的连用形「应じ」连接接续助词「て」构成，“按照”的意思。
- ⑥〔での〕 是补格助词「で」和领格助词「の」的重迭，作定语，“在……的”的意思。
- ⑦〔とか〕 并列助词，接在体言或用言的终止形的后面，表示数者择例，“或”，“和……等”的意思。
- ⑧〔というのは〕 惯用型，由补格助词「と」和形式用言「いう」后接形式体言「の」，再接提示助词「は」构成，“所谓”，“这个事”的意思，可以省译。
- ⑨〔とは〕 是补格助词「と」和提示助词「は」的重迭。「は」只起提示作用，加强语气。“同”、“与”、“跟”的意思。
- ⑩〔に於て〕 惯用型，“在”，“于”的意思。
- ⑪〔よりは〕 是补格助词「より」和提示助词「は」的重迭。「は」只起提示作用，加强语气。“比”、“较”的意思。
- ⑫〔ところ〕 形式体言，在这里是“地方”、“点”的意思，可以省译。

⑬〔によって〕 由惯用型「によって」和其接续助词「て」重迭提示助词「は」构成,加强语气,“根据”、“按照”的意思。

⑭〔攻撃せられる〕 是动词「攻撃する」的被动态,等于「攻撃される」,「せ」和「ら」约音为「さ」。“被攻击”的意思。

⑮〔然しながら〕 接续词,“可是”,“不过”的意思。

⑯〔あまりにも〕 是付词「あまりに」接上提示助词「も」,增强语气,“太”、“过于”的意思。

⑰〔かも知れない〕 惯用型,由付助词「か」重迭提示助词「も」和动词「知れる」的否定「知れない」构成,“说不定”、“也或许”、“也未可知”的意思。

⑱〔にした〕 是惯用型「にする」的过去时,在这里是“作为”的意思。

⑲〔かの〕 连体词,等于「あの」,“那个”的意思。

⑳〔如くみえる〕 惯用型,由文语形容词「如し」的连用形「如く」和动词「みえる」构成,“像”、“似乎”的意思。

㉑〔よりも、むしろ〕 惯用型,由补格助词「より」重迭提示助词「も」和付词「むしろ」构成,“与其…莫如”的意思。

㉒〔からである〕 是由付助词「から」连接判断助动词「である」构成的合成谓语,“是由于”、“之所以…是由于”、“由于…的缘故”的意思。

㉓〔としても〕 惯用型,由补格助词「と」和动词「する」的连用形「し」连接接续助词「ても」构成,“尽管认为”的意思。「とし」在这里表示认识,“认为”的意思。接续助词「ても」接在用言或一些助动词的连用形的后面,表示前后两项事物的逆态,“尽管”,“即便”的意思。

㉔〔同じく〕 是形容词「同じい」的连用形,“相同”、“一样”的意思。

第 4 课

しょう 証

かんぽう しょう じ しょう じ おな いみ ろち しょうどう き かんぽう
漢方では証の字を症の字と同じ①意味にも②用い症候を指すことである。漢方
いざく しんだん しょう はあく しょう しんだん ちりょう ひす め しょう
医学の診断は証の把握にあって③、証は診断と治療との④結び目であり、証によ
しんだん ちりょう みつせつ あ すなわ かんぽう びょうにん
つて診断と治療とが密接にからみ合っている。即ち漢方では、この病人は、どん